

日本共産党は堺市長選挙(9/29投票)で 現竹山市長を自主的に支持してたたかいます

橋下・維新の会は、9月の市長選挙での候補者を発表しました。日本共産党は、『維新の会が候補者を擁立するなら、現竹山市長を自主的に支持してたたかう』との声明を発表しておりましたが、ここにあらためてその全文を掲載するとともに、維新の会の『堺市つぶし』を許さず、現竹山市長を自主的に支持し全力でたたかう決意を表明します。

橋下・維新の「堺のっとり」許さず、住民福祉の増進と 自治都市・堺を守るたたかいとともに

2013年8月4日 日本共産党堺地区委員会

日本共産党も加わる「住みよい堺市をつくる会」は2日の臨時総会において、9月におこなわれる堺市長選で橋下・「維新の会」が候補者を擁立するなら、現竹山市長を自主的に支持してたたかい、必ず勝利することを決定しました。

日本共産党はこの「つくる会」の決定を支持し、その先頭にたつことを表明するものです。

その理由は、次の3点にあります。

堺つぶしを許さずくらし福祉を守る

第一に、3月に発表した党堺地区委員会の市長選挙に臨むにあたっての「声明」に示したとおり、今回の市長選挙における最大の争点は、橋下・「維新の会」による「堺市のっとり・堺市つぶし」を断じて許さず、市民のくらしと福祉、地方自治を守りぬくことにあります。

参院選において、橋下・「維新の会」は、大阪の比例代表得票を、総選挙時の146万票から105万票へと大きく減らしました。

これは橋下市長による「慰安婦」問題での暴

言や改憲・反動の政治路線が府民のきびしい批判にさらされたものであり、はやくも「日本維新の会」の解党・再編もおわせています。

同時に、大阪では100万票を維持したことで、橋下氏が「大阪回帰」、なかでも「大阪都構想」実現への執念を強くしています。

その最大の焦点が堺市長選挙にあるとして、公明党にも協力を要請するなど、なりふりかまわぬ構えを見せています。

これにたいし、橋下・維新が提案した「教育基本条例案」「職員基本条例案」を、堺の市民の声と運動の力で否決に追い込みました。

また、6月には「日本維新の会共同代表らによる、いわゆる従軍慰安婦問題などに関する発言の撤回及び謝罪、さらに公職の辞任を求める決議」を、わが党と自民党、ソレイユ堺、無所属市議2人の賛成多数で可決(公明党は反対・対案を提出)するなど、維新の横暴を許さないとくみが大きく広がりつつあります。

このもとで、橋下・「維新の会」の野望を堺

市長選挙で打ち砕くことは、大阪全体、さらには全国的にも改憲・反動の政治の流れにストップをかけ、国民の声で動く、まともな政治の姿をとりもどす一大転機となるものです。

竹山市政への評価と市政の前進に向け

第二に、竹山市政に対して、日本共産党はこれまで「是々非々」で臨んできました。

竹山市政が、わが党と市民の要望をとり入れ臨海部までのLRT路線建設の中止、国保料の4年連続引き下げ、子どもの医療費助成の中学校卒業までの拡充、お出かけ応援バスの平日毎日運行などを実現させてきたことは積極的に評価できるものです。（ちなみに、わが党は、竹山市政の予算案に初年度は反対、この3年間は賛成。自民・公明・民主系は4年間賛成、維新は今年度のみ反対）

なによりも、橋下氏の支援で当選した経緯をもつ竹山市長が、「大阪都構想」をきっぱり批判し、大阪府・市政にみられる橋下・「維新の会」の横暴な行政運営と明瞭に一線を画した市政運営をすすめてきたことは大きな意義をもつものです。

同時に、障害者の福祉施策やシャープへの公金支出問題などでは、わが党の姿勢や政策と異なり、不十分さや弱点があることを率直に指摘し、「丁々発止の議論」（竹山市長）をすすめてきました。

これらをつうじて、竹山市長はわが党の提言にも耳を傾ける姿勢を示し、党の演説会にメッセージを寄せるなど、参院選後においても率直な意見交換をすすめています。

わが党は竹山市政にたいし、今後も問題点には率直な批判をおこなうとともに、意見交換をつうじて、堺市政がより住民要求にこたえ、前進するよう力をつくします。

そのためにも、橋下・維新による「市政のとり」を絶対許さず、この市長選挙のたたかいをとおして、竹山市政を前進させる立場に立つものです。

維新との対決は一貫した政治姿勢

第三に、参議院選挙において、わが党は、大阪では「自民に対決、維新に痛打、抜本的対案を示す」という立場を鮮明にし、全国比例で5議席を獲得、選挙区では東京・京都とともに大阪で15年ぶりの議席を得て、改選3議席から8議席への躍進を果たしました。

ここには、「自共対決」、大阪では「維新との対決」という点で、わが党の一貫した政治姿勢にたいする評価とともに、反対だけではなく、あらゆる問題で抜本的対案を示し、現実政治を動かすという、党の役割への大きな期待が反映しています。

今回の堺市長選挙において、橋下・「維新の会」が候補者を擁立するなら、わが党として独自の推薦候補を擁立せず、竹山市長を支持してたたかうという政治決断は、参議院選挙にも示された市民の期待に正面からこたえるものだと確信します。

一致点での共同で地方自治の前進に全力

竹山市長は、自身の事務所開きにおいて、「大阪都構想」による「堺市のとり・堺市つぶし」を打ち破るためには、「広範な政党、団体、市民の固い絆の連携が必要」と力説しました。

わが党は、「大阪都構想ノー」はもとより、市民のくらしをまもり、地方自治を前進させる点で一致するすべてのみなさんと手をたずさえ、その共同の発展と勝利のために、あらゆる面で知恵と力を発揮し、先頭に立ってたたかいぬく決意を表明するものです。